

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム光樹の杜
(ユニット名)	たんぼぼ
所在地 (県・市町村名)	佐賀県西松浦郡有田町
記入者名 (管理者)	西山繁美
記入日	平成 21年 3 月 6 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設して満4年、ホームの運営理念を第一の基本とし、地域の中で確立した運営、利用者との共有した生活を目指し、「一緒に集い、生活し、考え、働くことによって、信頼がめばえ、生きがいを見つける」ことを事業所の理念として、関係者が日々実践している。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設内各所に、運営理念の掲示がされている職員は毎朝、唱和し利用者との関係、又、自己の目標実現のため、理念の共有、実践に研鑽がなされている。管理者は、このことが目指す方向に向かってるか、日常生活の中で確認し、指導、助言ができています。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族、地域との関係を日頃培い、その中で事業所の取り組み、思いを理解して頂いている。今後も利用者、職員が地域の中で共生していくことを、第一の目標にして取り組む。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣、周囲の家屋は事業者の親族が住み、互いに親しい関係が築かれている。他の近所の方ともその関係で日常、よりよい関係がなされている。又、管理者も同じ地区内に居住しており、日常の付き合いが保たれている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業者、管理者は共に地区内に居住していて、自治会活動に積極的に参加している、町、地区の祭りには、毎年職員の参加を促し、親睦と交流がなされている。その他、清掃作業等、年間を通じて様々な場面で地元に出向いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的に地域の高齢者との関係は出来ていない、自施設でこれまでに培った実績と経験を生かして、地域に貢献する意味は理解できている。幸い地域の方との個々の繋がりは十分あるので、職員のアイデアと協力を得て取り組みたい。	○	地域密着型の介護施設として、満4年経過し、今、地域が求め、期待されていることを、施設全体で取り組みたい。認知症ボランティア普及活動も含め、様々な事を視野に入れていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内部評価、外部評価、双方の狙い内容について運営者、管理者は理解した上で、職員と評価の指針に取り組み、その結果の反省し改善点をサービスの質の向上に生かしている。	○	一部の職員は理解し実践しているが、出来て無い職員も居り、全体のレベルを押し上げるまで至っていない、評価についても更に深く職員に伝えたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議の開催を実施している。様々な報告事項は基より、施設側の一方通行の会議にならない様に勤めている。例えば、感染症予防、事故、ヒヤリハットの検証の報告、食事メニュー、認知症キャラバンメイト講習、地区の情勢など様々な意見交換がなされている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	実践者研修、管理者講習の派遣、推薦の相談の他、介護策定委員として職員が参加したり、事業者連絡会議にも出席し、意見交換の機会を得ている。又、各種情報の交換が出来ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者、苦情処理等の各種講習で職員は、制度を学ぶ機会がある他、町の高齢者福祉計画等の身近な情報を収集している、現に成年後見制度、あんしんサポートの援助を受けている実例がある。	○	地域福祉権利擁護事業等、高齢者福祉の取り組みについて学ぶ機会が職員全体で出来ていない、新しい制度の研修を全体で実施し意識を高めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の会議、アセスメント、ケアプラン、カンファレンス等、様々な情報交換の場では、必ず虐待、拘束の防止について盛り込む。管理者も利用者の状態、職員の対応を常日頃意識を持ち見守る事が出来ている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>家族会的な組織を設け、ホームの運営で関係を持ち、協力、親睦の機会を今後は実現させたい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>長期間の研修、運営に不可欠な人材育成は、運営者の理解のもとで、管理者が職員の意見を参考に計画、実行している。常勤、非常勤の別なく、勤務時間に繰り入れて、研修の機会を作り、施設全体のレベルを押し上げている。</p>	<p>○</p> <p>研修会に参加し、研修内容を職員に対し教育する機会を作りたいが、思うように時間が取れない。今後の課題は貴重な研修の内容を共有できる場の工夫をする事。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>運営者の理解で、地区内での交流体制は出来ているが、実績が少なく、一部の職員だけである。これからは頻繁に交流を行い、全職員に機会を作ることで、更なる質の向上を目指していきたい。</p>	<p>○</p> <p>今後は自施設の課題、問題をテーマにした実りある交流をしていきたい。内容として他施設のキャラバンメイトとの勉強会、ケアマネ、看護師、専門職の交流、地区内での介護に関する研修会に参加するなど、自発を促すような職場環境にしていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>同規模の施設に対して、余裕のある職員配置がされているので、希望の休日、休暇を消化できる環境が整備されている。又、休憩場所はソファ、エアコン、電磁治療椅子2台があり、介護の現場より離れリラックスできる場所を提供、その他に運営者、職員の懇親会も開かれている。今後も職員のストレスケアに努めていきたい。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は常勤、非常勤者の区別無く、職員に対し関わりを持ち、時には個人面談で意見交換がされている。特別な勤務評価はないが、管理者、職員は互いに、働き易い職場環境を維持、向上する努力がされている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの相談を受けた後、本人にホームの雰囲気や少しでも分かってもらえるよう、入居前に、一度は遊びに来ていただき、家族に仲介役になってもらいながら、本人より現在の状況を確認したり、入居後の希望等を聞き取るようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>電話相談の後、ホームへ来ていただき、面談を行い、困っていること、不安なこと、求めていることを聴いている。場合によっては、本人も交え、それぞれの意向を聴き入れるようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームへ直接相談があった場合には、状況を見て、居宅介護支援事業所や他施設への問い合わせを促している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人にホームの雰囲気や少しでも分かってもらえるよう、入居前に見学に来ていただき、希望時には、日中の体験入居で食事や入浴、レクリエーション等を体験できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々過ごす中で、相手を思いやる心や礼儀作法を教わり学びながらよりよい信頼関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事においても、家族参加型を実施したり、面会時等、家族の方へ日頃の状況を伝える中で悩みや思いを共感しながらよりよい信頼関係の構築に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	基本情報や入所前のケアマネからの聞き取りを基に、一緒に生活する中でその人らしさを見つけだし、家族に伝えながらより良い関係を築けるよう支援している。		今後は定期的に家族会を実施し、意見交換の場を開催したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、地域との関係を、日頃培い、その中で事業所の取り組み、思いを理解して頂いている、今後も利用者、職員が地域の中で、共生していくことを、第一の目標にして取り組む。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士、気の合う仲間と過ごす中での交流は比較的保たれている。入居者個々が孤立感を感じることはないよう、職員が側で寄り添う等の対応に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>		
34	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>		
35	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>		
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果、変化や気づきは、その都度、ケース記録のほか、日課計画表に追加記入し、全チームスタッフが情報を共有し、状況を把握しながら、ケアできるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ターミナルケアの終末期は、泊り込みでの付き添い、飲食物の提供と協力、他にも家族の宿泊が時々ある。又、通常の面会時等に、気候が良ければホームの庭園散策で静かな時間を過ごされる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	季節の行事では、劇団やボランティアによる大正琴、ピアノ、詩吟等の協力で、活気のある会を開くことができている。職員が付き添い、町内の図書館へ出向き、好きな本が選べる、借り図書の支援は、入居者に好評である。	○	地域の方とふれあう機会として、傾聴ボランティアを利用したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスの活用支援は行っていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	適宜、問題が起きた際は、相談するようにしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師による往診や、かかりつけ医への受診を定期的、あるいは、適宜、支援している。入居者の状態変化時は、連絡を取り合い、指示を受けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者を尊重した、その方に合った言葉かけや接し方に努めている。個人記録等は、個別にファイル化し、入居者の目に触れない所定の場所で管理している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者一人ひとりの話を傾聴しながら、思いや希望を引き出し、支援していけるような、環境調整に心がけている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースで食事を摂ってもらったり、買い物や図書館へ付き添いをしたり、喫煙支援をしたりなど、その方の希望に沿って、個別的な支援をしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節や、天候に配慮した上で持ち物の中からその人らしい選択が出来るよう支援している。家族希望にて専属の訪問美容を利用している。又、個別に行き付けの理美容の付き添いも行っている。希望時にはメイクやネイルも実施している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを献立に取り入れたり、食事の下準備や後片付けを職員と共にやっている。又、事業所の畑において入居者と一緒に季節の野菜を育てたり、収穫したりと楽しんでいる。	○
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の健康状態や状況に合わせて周囲への配慮を考慮しつつ、指定場所を設けた上で楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にて個々の排泄パターンや機能を把握し、オムツ使用や失敗をなるべく減らしながら、入居者が苦痛を感じることがないように配慮した上での言葉かけや誘導に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に2日に1回の入浴を行っている。六十〇ハップを週ごとに変更し、感染予防と保温効果を目的に活用している。入浴日は入居者への希望を聞き、体調をみて言葉掛けと自己決定を促している。入居者に合わせた湯温、室温を設定している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間でも夜間に影響しない程度に休息をとれるよう支援している。又、リビングの畳上を利用して本人が安心して眠れる場所を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の楽しみ作りに、レクリエーションを充実させている、音楽、習字、読み聞かせ、読書、花作り、運動等、専門家あるいは職員に学習療法士1級を2名養成し取り組んでいる。食事に携わることがホームの生活で比重が大だと理解し取り組んでいるが、実際には関わりがあまり出来ていないのが現状。	○	食事専門の常勤者がいて現場中心でこれまで来た、今後は利用者、職員の関わり方を修正し改善していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預かり金、まとまった手持ちの金銭は、経理担当の事務職員と職員で相談し、安全のため管理している。その他では、各個人の支援度に応じ、管理者、職員が利用者に説明と理解に努め、定期的外出時、また日頃の購買の支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望の利用者には、必ず外出の人数に応じた職員を配置している。幸いに勤務人員換算で余裕があるので、天候等を加味し、屋外活動を促している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者と、日頃の関係でその方の思いを把握し、実現可能な事は管理者、職員と計画、実行している。最近では日帰り温泉、動物園等の観光を楽しまれた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日等の記念日に、親族より贈り物が届いた時など、御礼の電話を入れたり、暑中見舞い、年賀状などの通信の援助に取り組んでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	個人、多人数での訪問でも、他利用者に気兼ねしなくても良いように、リビング、居室以外に面会スペースがあるので重宝されている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をはじめに考えるのではなく、「問題行動」の原因は何かを第一に考え、その原因にアプローチし、チームスタッフでカンファレンスを開き、支援方法を検討するように努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、管理者、職員は鍵をかける事で、利用者の生活環境に及ぼす影響について統一した意識を持っている。居室は無施錠式で廊下の1箇所と玄関のみかけられる構造で、センサーと職員の見守りで対応している。危険な事例が発生すれば、管理者、職員で対策を即検討している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、利用者の生活、行動を主に側面から援助し、安全に暮らしが出来るよう見守っている、夜間はユニット1名体制、建物が平屋作りで互いに見渡しながら協力出来る構造で、日夜、安全管理に取り組んでいる。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その時々利用者の状態を管理者、職員はカンファレンス、申し送りで毎日の状態を知り、危機管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	管理者、防火管理者、看護師は有事の際の対処について、消防署、医療関係、地区民と関係を築く取り組みされている。それらをホーム内でヒヤリハット等の改善に生かされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	すべての職員が揃っての定期訓練は、実施出来ていないが、消防署の訓練指導、ミーティング時に避難のシミュレーションを不定期に行っている。又、管理者が救急救命士であり、計画的に看護職員と取り組みたい。	○	応急手当や初期対応の定期的な訓練は実施できていないので、今後取り組みたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜勤者は特に非常通報設備の使用について、理解できている。作動させると、消防署は基より、直近の民家に連絡が行き、協力を得る体制がされている。又、避難経路について個々に確認し、シミュレーションを促している。	○	実際の非常時は、地区住民の協力が必要と思う。消防団はじめ住民の方との交流を推進し、協力を得たい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプランについての面談時や電話連絡にて、起こりうるリスクについて説明をし、家族にも出来る限りの協力をお願いしている。(例えば、入居者にリスクを説明してもらったり、注意してもらったりなど)		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルサイン(体温・脈・血圧)測定は、毎日実施し、表に記入している。身体状態の変化に気付いた際は、常勤の看護師へすぐに報告している。看護師は、再検したり、医療機関との連携を図り、介護職へ伝達している。お互いが、バイタルチェック表やケース記録へ情報を残し、共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が使用している内服・点眼・軟膏などの薬の内容は、一目で分かるようにファイルに綴じている。服薬後や点眼後、軟膏塗布後は、必ずチェックシートに記入し、確実に実施したことを表すようにしている。服薬管理は、主に看護師が行っており、1日分ずつセットしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄の確認は、毎日行っている。便意が無い入居者においても、定期的にトイレに座らせ、排便習慣を作っている。安易に薬に頼るのではなく水分摂取や適度な運動、腹部マッサージに努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、うがいを習慣化し、言葉かけや介助を行っている。就寝前には、入れ歯を洗浄剤につけおきをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事専門員を配置し、量や栄養バランスなどを管理している。入居者が水分摂取しやすい方法を検討し、個人に合わせて、好みの飲料水を準備し、水分確保ができるようにしている。食事量や飲水量チェックを行い、季節を問わず一年を通して、脱水予防に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	全ての職員が閲覧できるように、感染症マニュアルをファイル化している。それぞれの感染症流行の時期には、勉強会を開き、予防法の周知徹底に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、新鮮で安全な食材を調達して調理しており、調理中は、食中毒の予防に配慮し、調理場への入室を避け、調理器具は食器乾燥機やアルコール剤使用し、衛生管理に努めている。また、全入居者は、必ず消毒用アルコールジェルで食前の手洗いを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家族、外来者用に玄関前に広い駐車スペースを設けている。なだらかなスロープ、手すり等が設けてある他、エントランス、玄関付近には、季節を感じさせる花が咲いていて、外来者を迎えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の場所は、どの場所も広く、圧迫感を感じさせない作りがされている。壁、床、カーテンなど調度品は中間色の落ち着いた雰囲気、生活環境をかもしだしている。リビングからは、日本庭園が見渡せ、四季折々の花、木々で季節を感じ取れる環境があり、穏やかに生活されている。音、明かり、採光などの調整は主に職員が利用者の生活に合わせ配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペース各所には、椅子など意図的に配置している。各人の趣味、生活に合わせ、大型テレビでのカラオケ、電磁治療器2台がある場所、70平方メートルの屋外バルコニーなどそれぞれ過ごせる場所の配慮がされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の契約時に管理者は、居室の環境作りについて説明をし、家族の協力で、今まで使い慣れた物品に囲まれた生活が出来よう支援している。	○	施設完成時にすでに窓のカーテンが取り付けられており、どの居室も同じ色、柄で統一されている。出来れば入居時、希望を聞き入れたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	玄関ホールには大型の空気清浄器を備え、ホーム各所にも、強制換気設備を設けてある。空気の乾燥時期は各所に加湿器を置き、利用者の健康管理に努めている。生活の場の温度調節は天候、体調等に考慮している。またリビングは床暖房設備なので乾燥予防に役立っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は車椅子移動、歩行に支障がきたさない幅で、非常災害時の避難も考慮し、障害物の無い作りで、手すりも各所に設置してある。又、玄関より全館バリアフリーの床で安心して歩行できる構造になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	過去3年間、内部、外部講師を迎え、毎週定期的に音楽を取り入れている。又、焼き物関係に従事した方が多く、物作り、絵描きなど得意にされ、それを生かしカレンダー作り、書など楽しまれ日々生活されている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外は山、畑に接していて四季を感じる自然がある。ホームの中に日本庭園があり、併設したルーフバルコニーより行き来でき、日光浴、散歩にと多目的に利用されている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者、職員が暮らしている有田町は、日本の磁器発祥の地で400年間栄えている歴史と文化の香る町に、平成17年4月に地区で最初のグループホームとして開設されました。職員は地区初のホームを作り上げ、フロンティア精神に富んでいて、運営理念を基本に様々な取り組みをされ、笑顔、笑い声が絶えない明るいホームで共に生活されている。建物は新築で旧料亭の山荘跡地で広大な日本庭園に併設した平屋建て、有田駅より1,500mと市街地にも近く、利用者家族、来客も行き来し易い環境にあります。